

2018

大阪招待交流親善試合 文集



今年度、私たちは、「応える」をスローガンに大阪招待に臨みました。この滞在で多くのことを学ぶことができました。学んだことを文集にまとめましたのでどうぞご覧下さい。

宮城県気仙沼高等学校野球部

宮城県気仙沼西高等学校野球部

2018/03/23

七年を経て

気仙沼高校硬式野球部

2年 小野寺 音生

東日本大震災から7年が経った現在でも支援を続けていただけたことに感謝します。今回の遠征は自分にとって2度目の関西遠征であり、最後の遠征となりました。自分たちは「応える」ということをテーマに掲げ今回の遠征に臨み、昨年を引き続き、野球のこともそれ以外のことも、たくさんの発見をすることができました。その一部を紹介させていただきます。

まず、この遠征で自分が一番に感じたことは大阪の高校の意識の高さです。大阪という地域は学校数も多く、強豪校と呼ばれるような学校もたくさんあり、ひとりひとりの意識が自分達よりも高いと感じました。それは野球のプレーに限った話ではなく、返事、道具の整理整頓、移動時のダッシュなど、いたるところにその意識の高さが表れていました。

自分が茨木高校の野球部員と交流をさせていただいた際、普段の生活について色々伺ってみました。まず、茨木高校は気仙沼高校よりも一日の授業時間が長く、にもかかわらず、練習を切り上げるのは自分達よりも早いとおっしゃっていました。さらに練習が終わった後にはほとんどの生徒が塾に向かい大学進学に向けて勉強をしているそうです。茨木高校は何事においても、夢をかなえるために努力を惜しまない素晴らしい意識のもと日々を過ごしているのだと知りました。ここで自分の生活を振り返った時に、自分は普段、部活を理由に帰宅してからの時間の活用をおろそかにしていたと痛感させられました。

また、大阪という地での集団生活やつばさ高校の生徒との交流からも多くのことを学ぶことができました。自分は集会所に宿泊させていただきました。食堂でごはんを作っていたいただいた方や、シャワーを使わせていただいたジムの方に最後にお礼を言わせていただいた際、「来年も是非いらしてください！」と言って頂き、とても嬉しく、この繋がりを今後も継続していきたいと思いました。

自分はこの遠征はある意味東日本大震災のおかげでできたものではないかと考えています。この繋がりを大切にしていきたいという思いが自分達だけでなく、大阪の方々も持っているということを知ることができ良かったと思います。これは今後震災を風化させないためにとっても重要なことだと思うのでそういった意味でも良い遠征だったのではないかと思います。

今回の遠征で感じたこと、気づいたことをそのままにせず、活かしていくことが自分達に必要なと思うので、そこを意識してこれから生きていこうと思います。

大阪招待を通して学んだこと

気仙沼高校硬式野球部
2年 佐藤 優成

今年もたくさんの方々の支援によって大阪へ行くことができて感謝の気持ちでいっぱいです。準備・計画をしてくれた北摂つばさ高校ユネスコ部のみなさん、ホームステイ先や自治会館を貸して下さった住民の方々、募金をしてくれた方々など数えきれないほどの方に携わっていただいて、人とのつながりを強く感じた遠征でもあります。試合を通して学んだ技術的な面もありますが、それ以上に大きかったと感じているのが、集団生活を通して周りを見る力・細かなところに気を配る力が身についたところだと思います。たとえば今までは家や学校でしか靴を並べませんでした。公共施設のトイレなどでも心がけて並べるようになりました。また、「今、だれがどんなことを考えていて、どのような声掛けが必要か」を考えるようになりました。今回の大阪招待は1勝2敗と悔しい結果に終わり、自分自身も途中から出場ができなくなってしまいました。人として他の野球部や部活では経験できないことも経験させてもらって、成長することができた実感しています。これからは、震災から7年が経過しても今なお支援してくださる方がたくさんいること、同じ高校生が自分たちのために一生懸命ボランティアをやってくれたことを野球部だけにとどめず、気仙沼高校の生徒のみんなや気仙沼の人たちにどんどん伝えていきたいと考えています。また、自分たちも常に感謝の気持ちを忘れずに行動していきたいと思えます。

大阪招待を通して

気仙沼高校硬式野球部
2年 吉田 昂平

私は、今回の大阪招待を通して学んだことが3つあります。

まず、自分自身一人では何もできないということです。今回のように大阪に招待していただいたこと、野球をできること、色々な人の支えがあるからこそ成り立っていると深く思いました。そのことを忘れずに常に感謝の気持ちを持ち、さらに当たり前前は本当は当たり前ではないという意識を持って生活をしていきたいと思えます。

次に、ホームステイ先の話で、私を含め高校生4人を泊めさせていただきました。ホストファミリーの前川さんには去年もお世話になりました。今年も私たちを温かく迎え入れてくれました。まず家に着くとすぐにご飯を用意してくれました。去年は4人とも前川さんとあまりコミュニケーションをとれませんでした。今年全員が食事中の時やフリータイムで楽しい会話ができました。夜は、リビングルームを貸切にしてくれたり、私たちを先にお風呂に入れてくださったり、おいしいご飯を作ってくくださったりとたくさんもてなしてくださいました。この温かさは絶対に忘れてはならず、私も前川さんのような、人のために何かを一生懸命頑張れる人になりたいと思えました。

最後に、野球を通してのことです。私たちは、茨木高校と北摂つばさ高校と金光大阪高校と試合をしました。すべての高校で感じられたのが、ボールに対する執着心がすごく、一球を本当に大切にしながら野球を楽しんでいるなど感じました。それを今に自分に当てはめた時に、果たして今までの人生でこんなに楽しんで野球をしたことがあったらどうか。ゼロではないと思いますが常にそういう意識で野球をしていたとは限りません。残り少ない高校野球人生ですが、そういう意識を持って頑張りたいと思います。私にとっての「野球を楽しむ」とは、自分の夢・目標（甲子園）実現に向かって、辛いことを乗り越えて野球を全力で頑張ることだと思っています。今回の招待で改めて楽しむ重要さに気づかされました。

今回の招待で得た貴重な経験を決して無駄にせず、野球のことや私生活のことなど最大限に活用させたいと思います。

吸収

気仙沼高校硬式野球部
2年 熊谷 元

私は大阪招待で三つのことを学び、感じ、そして得ることができた。

まず一つ目は、ホストファミリーの暖かさである。私は集会所でなく、ホームステイをさせていただいた。お世話になったのは前川さんという方で、去年に続き2年連続でお世話になった。高校生4人を二日三日とはいえ受け入れるのは並大抵のことではない。私たちをもてなすため料理やお風呂を準備していただいたり、リビングルームを貸切りにしてくださったりした。ホストファミリーの前川さんには感謝の気持ちでいっぱいだ。最初、私はあまり自分から話しかけることができずにいたが、ホストファミリーの方々が優しく気軽に話しかけてくださったおかげで、私も楽しくコミュニケーションをとることができた。いつか大人になったらまた前川さんを訪れたいと思う。

二つ目は全国レベルの野球である。今年は茨木高校、北摂つばさ高校、金光大阪高校の三つの高校と対戦させていただいた。全国レベルというのは単純にチーム・個人の強さという意味だけでなく、身の周りの整理整頓や礼儀、試合前・試合中の細かな所作など、全国レベルの強さの裏側を見つけることができたように思う。しかし、ただ見つけただけでは意味がない。しっかりと自分たちの野球に組み込んでいくことが重要である。私たちは金光大阪さんのような大人数のチームではない。大阪招待で吸収したものに、気仙沼高校なりのエッセンスを加えていくべきだと考える。

三つ目は、交流の大切さである。今回の大阪招待も北摂つばさ高校のみなさんやホストファミリーの方々をはじめ、様々な方々も支援があってこそのものであった。七年前の東日本大震災を機に交流が続いているが、この交流を絶対に絶やしてはならないと思う。むしろ震災が風化しつつある現在だからこそ、交流をさらに続けていくべきなのだと思う。

私にとってこの大阪招待は人生の中でかけがえのない経験となった。今回得た三つのことをこれからの野球、これからの人生に生かしていきたい。

ぬくもり

気仙沼西高等学校
2年 山内 大海

私が、この大阪の招待を通して気づき感じたことがたくさんありました。

一つ目は、人々のぬくもりです。大阪に招待され朝の早い時間でありながらも大勢の出迎えの方々が出てこんなにもの方々、いやこれ以上の方々を支えられてここにいられたと感じました。さらに地域の方々のぬくもりにも触れることができました。挨拶するといろいろな人が、「どこから来たの？」など声をかけていただき、私らが、「宮城の気仙沼から来ました」と答えると「遠くからご苦労様」や「野球がんばって」などの声もかけていただき、高校の皆さんだけでなく町全体を通して歓迎されていてとてもうれしく思いました。

二つ目は人々の支えです。私たちが生活するうえで必要な、バスでの移動の費用、食事お風呂、宿泊する施設、試合する場所、どれに関してもだれかが、私たちのために動いてくれたおかげです。このことに関しては、感謝の言葉しかありません。

三つ目は、大阪が私の心をきれいにしてくれたことです。私は、宿泊施設として高校の近くの自治会館を使わせていただきました。そのお礼として近くのゴミ拾いをしました。その時に地域の方々から「ありがとう」と逆にお礼の言葉をかけてもらいました。少しでも地域の方々の役に立てたことが私はとてもうれしく思いました。そして、掃除をしている中で、私の心もきれいになっていくようでした。以前私は、先生に「誰かのために何かをすると心がきれいになる」と言われたことがありました。その本当の意味を知れた瞬間でした。それは、大阪の方々がしぜんにありがとうと言ひ、誰かのために何かをすることについて深く考える機会をくれたおかげでもあります。私も人のために何かアクションを起こせる人間でありたいと思います。

～多謝～

大阪遠征を通しての学び

気仙沼高校硬式野球部

2年 小野寺 真澄

今年の大阪遠征を通して私は、大きく3つのことを学びました。

まず1つ目は、野球を楽しむということです。1日目に私が小学生と野球をした際に、小学生はずっと笑顔で常に楽しそうに野球をしていました。その様子を見て、私には少し欠けていたことだと思いました。元々やりたくて野球を始めて今までやってきているのに試合などでピンチになったり、緊張したりすると自分自身に余裕がなくなり、苦しくなったり、感情的になり冷静じゃいられなくなっていました。しかし、1日目に小学生を見て自分も初心にかえり楽しんで野球をしてみようと思い、3日間の試合すべて楽しんでプレーしてみました。試合の中でピンチはありましたが、緊張することはなくなり余裕ができました。これからも野球をすることを楽しんで自信を持って頑張っていきたいと思います。

次に2つ目は、人と交流することです。元々私は人とコミュニケーションをとることは苦手ではありませんが、今回の遠征を通してコミュニケーションをとることの大切さを学びました。昨年の遠征では、緊張して送迎されているときもホームステイで家にいる時もなかなかコミュニケーションをとることができませんでした。しかし、今年の大阪遠征では2回目ということもあり緊張することはなく、コミュニケーションをとり、交流を深めることができました。とくに、ホームステイをさせていただいた前川さんには、「去年よりしゃべるようになったな、去年からこんなキャラだったのか!？」と驚かれ、2回目で自分というものを話せて話すことができました。また、送迎中にも送迎していただいた人たちとも楽しく話すことができるとてもよかったです。人と交流するうえでコミュニケーションをたくさんとり、自分をさらけ出すことが大切だと思いました。これからもこの経験を生かして人と交流するときには、自分を知ってもらい、どんどん話していきたいと思います。

最後に3つ目は「有難う」という感謝の気持ちです。「有難う」は「ありがとう」と読み、有ることが難しいと書きます。今回の遠征で関わった人との交流や、大阪のチームとの試合、今回の遠征自体も私たちが招待して努力してくれた人たちがいなければ、遠征はなかったし、有ることが難しいことだったと思います。本当に今年も私たちが招待していただき本当に有難うございました。

これら3つのほかにもたくさんのことを学びました。この経験をこれからの生活、人生に生かし、元気な私らしい私をだして生きていきたいと思います。楽しくて面白く、幸せで大切な時間を共に過ごしていただき本当に有難うございました。

大阪招待を終えて

気仙沼高校硬式野球部
2年小野寺 颯純

今回の遠征は、振り返ると非日常なものでした。バスで一晩かけて大阪まで行ったこと。朝早くから茨木市の人々が一丸となって私たちを出迎えてくれたこと。50人近くの選手が2泊3日の滞在をすることができたこと。本当の家族のように接してくれたホストファミリーがいたこと。激戦区の大阪地区で甲子園に手が届くほどのチームと試合をすることができたこと。本来なら敵であるはずの登米高校の選手が仲間として応援してくれたこと。これらのことは、多くの人の協力があったことでした。

人の生活は個人だけの営みではなく、多くの人との連携で成り立っています。私は今回の遠征を通して、このことが決して当たり前ではないことを痛感しました。

今回の交流のきっかけとなったのは、7年前の東日本大震災でしたが、これは、恐らく、私たちの人生のなかで最も不幸な出来事でしょう。しかし、皮肉にも、これは私たちに多くの人と繋がる良い機会を与えてくれました。今回の交流も例外ではありません。この奇妙な関係は私に人と繋がることの素晴らしさをおしえてくれました。

私たちは数年後には、社会人として世の中を作っていく立場になります。私たちは震災を経験した若者として多くのことを求められるでしょう。しかし、私たちはそのような困難を乗り越えられる力を今回の遠征で得ることができました。皆さんには、私たちがこの世の中で躍動する姿を見守ってほしいです。私たちはその期待に応えてみせます。

圧倒的な情熱で挑む

気仙沼高校硬式野球部
2年 千葉 匠真

2回目の大阪招待で強く感じたことは夢や目標といった自分のやりたいことがあると、人間は大きく変わることができるということです。これは今回、対戦していただいた3校の野球部のみなさん、そしてボランティアの生徒のみなさんから学んだことです。彼らは何かに対して夢中でした。まず、北摂つばさ高校さんは、私たちを迎えてくださることに対して、とても積極的で、できる限りの熱い歓迎をしていただけました。つばさ高校の生徒のみなさんは今回の招待を成功させようと努力していました。茨木高校のみなさんは、野球だけでなく勉強も頑張っていました。一緒に昼食を食べた野球部の彼は、練習が6時半くらいに終わるので、その後は塾に行っていると話していました。それも週に6～7日は行くそうです。そして金光大阪高校の野球部のみなさんは、どのチームよりも声を出して練習していました。道具やグラウンドもきれいに整備されていて、見ただけで本気で甲子園を目指していることが容易に想像できました。彼らと自分との決定的な違いは、目標に対しての熱量です。具体的な目標を持たずに、毎日を消化してしまっている自分に対して、彼らはその情熱を毎日の目標に対して、全力で注いでいました。そんな人生には悔いは残らないだろうなと思いました。今までの自分を見つめなおすと改めなければいけない所ばかりです。ボランティア活動に意欲的だったか。野球を理由に勉強から目をそむけていなかったか。本気で野球に取り組んでいたか。自分はとても幸運な人だと思います。なぜなら今回の招待を通して自らにこの問いを立てることができたからです。今からでも自分を変えることは可能です。無論、もうすでに変わっているのかもしれませんが。朝にゴミ拾いをしてからは道を歩くときにゴミがないかと気にするようになったし、この文章を書いているときにも思考はすでに良い方向に変わっているような気がします。進まざる者は必ず退き、退かざる者は必ず進むという言葉があるように、これからは前を向いて進んでいかなくてははいけません。意識的に生活していこうと思いました。

大阪遠征で考えたこと

気仙沼西高校野球部
2年 千葉 颯人

私がお大阪招待で考えさせられたことが3つありました。まず、初日に開かれた歓迎会では、茨木市長の出席や、北摂つばさ高校ダンス部によるダンスの披露、そしてこのような会を計画、サポートしてくれたユネスコ部の方々といった多くの人のもとで私たちが野球をできているというのを強く実感できましたし、多くの人々の注目を集め、学校の活性化をしているユネスコ部のすごさを感じることができました。また、これから統合する私たちの学校でも見習い、統合校としての模範としていきたいなとかんがえました。

次に三日間の試合で学んだことは、一球に対する思いの強さです。3校それぞれの校風はありましたが、それぞれが一球に対し貪欲に取り組んでいて、チームの雰囲気も試合を通して下がることなく、全員が試合に一選手として参加していると思いました。また、道具の整理もしっかりとしていて、まるで隙のないチームづくりができていると感じられました。それは、私にとって今まで足りなかったことだと気づくことができ、大きな刺激になりました。この経験を生かして、自分が野球に臨んでいく意識の向上に取り組んでいこうと思います。

3つ目に、野球以外のところで学んだことは、団体行動と感謝の気持ちについてです。今まで一日を通した団体行動を統合校のチームになってからする機会がなかったため、とても良い機会でした。そこで学んだことは、公共の場での行動や、宿舎の利用といった団体であるから気を付けることの確認と思いやりの大切さです。人数が多かったためになかなか不便なところがあり、気遣いながら生活することがあったために信頼関係が重要であることに気づかされました。また、このような機会を作ってくれた集会所の方々、営業時間外にジャグジーを使用させてくれたジムの職員の方々の支援の気持ちの大切さに気付かされると同時に感謝の気持ちを持つことの大切さに気が付けました。

このような、機会を作ってくれたことを忘れずに今後の生活、野球に取り組んでいこうと思います。

大阪で学んだこと

気仙沼高校硬式野球部
2年 小野寺 陽奈

私たち気仙沼高校硬式野球部を大阪に招待していただき、ありがとうございました。東日本大震災から、今年で7年が経ちました。震災から年月が経っているにもかかわらず、このように支援を続けてくださっていることを、大変ありがたく思いました。

私はこの3日間で、たくさんの方に気づき、学ぶことができました。まずは、たくさんの方に支えられながら生きているということです。私は大阪に滞在する間、洗さんご一家にお世話になりました。お子さんとは、トランプやレゴで遊んだりして、楽しい時間を過ごすことができました。洗さんには、朝食から晩御飯の準備からお風呂の準備まで、身の回りのことをしていただきました。洗さんに感謝の気持ちを持つのと同時に、私自身の家族にも日頃の感謝の気持ちを持たなければいけないと思いました。さらに、北摂つばさ高校のみなさんには、お話をしながらホームステイ先までの送り迎えをしていただきました。このように、たくさんの方々の支えがあって生活することができているところを、実感することができました。

また、洗さんには震災時の余震を表したグラフを見させていただきました。そこには、震災時も途切れなく続く余震が記録されていました。それは、世界的に見ても珍しく、私でも知らなかったことでした。私は震災を経験しても、まだ被災地について知らないことがあることに気づきました。そこで、もっと被災地のことを知る必要があると思いました。そして、私自身が知るだけでなく、他の地域の人に震災を伝えることが大切だと思いました。それが、震災を風化させないことにもつながると思います。今後は、震災のことをお話させていただくことがあれば、自分の経験を伝えていきたいと思いました。

私は、この大阪招待で、とても充実した日々を過ごすことができました。大阪招待に関わっていただいた、すべての方々に心から感謝します。3日間、本当にありがとうございました。

感謝

気仙沼高校硬式野球部
1年 菊地弦

自分は大阪招待を通して沢山のことに気づくことができました。大阪招待の大きなテーマである「応える」という言葉に関連させながら振り返りたいと思います。

歓迎セレモニーのとき、沢山の人が見えてこの大阪招待は沢山の人が関わり、支えていただけて成り立っているのだと思いました。また自分は被災者として応援されていると感じたのでその応援に応えたいと思いました。またスポーツ少年団のみんなと交流をして小学生に「何年生？」と質問をしてみると「6年生」などと応えてくれました。応えてもらうことがこんなに嬉しいのだと改めて思いました。

野球を通して感じたことは大阪の3チームはすごく立派で元気のあるチームだと思いました。茨木高校は部活と勉強の両立ができていて素晴らしい学校だと思いました。自分も見習わなきゃいけないと思いました。ちなみに茨木高校の生徒は京都弁の上品さと関西弁のユーモアさが混ざった言葉を使っているらしいです。東北の方言や気仙沼弁を聞かれたときに応えられなくて申し訳ないです。北摂つばさ高校はグラウンドが綺麗で石一つありませんでした。そういう小さなことができていてこれも見習わなきゃいけないと思いました。金光大阪は声が出ていて圧倒されました。スタメンはもちろんベンチにいる人もスタメンを押しあげるような声が出ていていいなと思いました。すべてにおいて全力が伝わってきました。周りのいろんなことも徹底されていました。学んだことを生かすも殺すも自分次第だと思うので生かせるように頑張りたいです。

大阪招待は沢山の人の支えがあって無事終わることができました。交流した5校の皆さん、食事を提供して下さった皆さん、関係者の皆さんの気持ちに応えることはできたでしょうか？短い間でしたが本当に有難うございました。

大阪招待を終えて

気仙沼高校硬式野球部
1年 小野寺健太

私は、今回の大阪招待を通して野球のことについて多くの学ぶことがありました。その中の一つは、野球を楽しんで全員で一つのプレーをしていると感じたところです。私たちが対戦した茨木高校、北摂つばさ高校、金光大阪高校は試合中の雰囲気や声の出し方などすべて全員でプレーしているという感じがあり、一球に対する思いや執着心がすごいと思いました。そして、今の自分たちに足りない部分はそういう部分ではないかと思いました。自分たちは今回の経験をもとに今後の練習や試合に対して、改めて考えなおすいい機会になりました。

私たちは、今回の遠征を通して野球について多くのことを得ることができました。私たちがこうして大阪に来て有意義な時間を過ごすことができたのは、つばさネットワークの皆様や北摂つばさ高校の方々、茨木市内の高校の野球部の方々など多くの人のおかげです。大阪に来て本当に多くの人々が自分たちのために支援や協力していただいていたことを身をもって感じる事ができました。私たち、気仙沼高校硬式野球部はこの大阪招待で得た多くの経験やつながりを今後の試合や練習に生かして、春や夏、秋の大会でいい結果を出して支援してくださった方々に感謝の気持ちを届けられるようにしていきたいと思えます。

今回の招待での貴重な経験を糧に今後の生活をし、多くの方々に支えられながら生活できているということを忘れずに生きていきたいと思えます。

大阪での学びを糧として

気仙沼高校硬式野球部

1年 小林 悠

大阪招待を振り返ると野球はもちろん、身の回りや考え方を勉強することができ、たくさんの収穫がありました。

野球では、ボールに対して一球の重みを大切にしているシートノックや選手が一体となって声をだしスタメン・ベンチが試合の雰囲気を作って流れを自分たちのチームへ引き寄せチームを勝利へ近づけようとしている姿勢がすごく良くて、勉強になりました。

身の回りでは、北摂つばさ高校や金光大阪高校のグラウンドの整備が細部まで行き届いており、石も落ちていませんでした。元々の設備や状態が違うとはいえ、完成度はもっと気仙沼高校のグラウンドも上げることはできるのでこれまで以上に丁寧に念入りにやっていきたいと思います。また、金光大阪高校はレーキやトイレなど様々な細かいところも整理整頓ということが徹底されていました。これはすぐに部室や自分自身の身の回りからなどすぐ始められることだと思います。その小さな積み重ねを大切にしていきたいです。

考え方では、バッテリーでピッチングフォームについて理論をかみ砕いて話しているところを見ました。ただ、（腕が下がった）とピッチャーにいうのではなくて、（〇〇が出てきていないから腕が下がったよ）というように投球の過程のところまで目を向けてピッチャーが修正できるように説明することがこれから必要だと感じました。

そして、大阪招待ではあらためて「人の暖かさ」を食事や宿泊先、4校の皆さんや地域の皆さんとの交流を通して感じました。また、集団行動という面で、（遅れ）を取らないようにするために前々から準備をすることの大切さ、行動を前もって考える力を身につけることの重要さを改めて実感することができました。

最後に、この招待を通して気づいたこと・学んだことを糧として自分自身・チームがより良いものになるように努力していきたいです。

この度は本当にありがとうございました。

「感謝の3日間」

気仙沼高校硬式野球部
1年 照井 翼

私は今回の大阪招待でたくさんのことを学び、感じることができました。

まず、野球のことについてです。茨木高校、北摂つばさ高校、金光大阪高校との3試合のなかで、どのチームも元気があり雰囲気がとても良いと感じました。さらに、1球1球のボールに対しての執着心などプレーのなかでも自分たちとの違いを見つけることができました。また、トンボなどの道具の整理整頓や、グラウンドのキレイさなどプレー以外の身の回りの部分でも多くのことを学ぶことができました。今回学んだことをしっかりと活かしていきたいと思います。

次に、招待していただいたことについてです。私たちは招待していただき大阪に行かせていただきました。震災から7年が経過した今でも、支援していただいていることは当たり前なことではありません。そして、大阪で改めて多くの方々に支えていただいていることを実感しました。私たちのことを歓迎してくれた北摂つばさ高校の生徒のみなさん、地域のみなさんの心の温かさを感じることもできたこと。7年が経過した今でもつながりを大切にする気持ち。そして、支えてくださる方々への感謝することの大切さを感じ、学ぶことができました。そこで、いつまでも支援される側ではなく、今度は私たちが恩返しをする番だと思いました。ゴミ拾いなどまだ小さな恩返ししかできていませんが、私たちが甲子園に出場し全力プレーで、支えてくださったみなさんに感動と元気を届けたいと思います。

今回の大阪招待は野球人生においても人間として成長することにおいても本当に貴重な体験となりました。今後も支えられていることを忘れずに感謝の気持ちを持ってつながりを大切にしながら1日1日を大切に過ごしていきたいと思います。

最後に、大阪招待に携わっていただいたみなさん、本当にありがとうございました。恩返しができるように頑張っていきたいと思います。

「実りの五日間」

気仙沼高校硬式野球部
1年 菅野 哲平

私はこの五日間の大阪招待で学んだことが多くありました。

まず、野球の面では、北摂つばさ高校、茨木高校、春日丘高校、金光大阪高校の四校すべてのチームが全員できちんと一つのプレーに絡んでいたことに気づきました。そうすることによって、選手のプレーを指摘することができ、自然と一人一人が声を出し良いムードになることを学びました。そして金光大阪高校のシートロックを見て、一人一人が一つのボールへの執着心が強いことに気づきました。エラーをしても次があるとは思わず、一つのボールに集中することで一つのプレーを大切にしていることを学びました。

次に身のまわりの面では、北摂つばさ高校も金光大阪高校もへこんでいる箇所が無いくらいきちんと整備されているグラウンドで、グラウンド整備をきちんとすることによって、プレーをする上で自分のベストを尽くせるような努力をしていることを学びました。そして金光大阪高校は試合中、細かなことに気づいたり、緊迫した場面でも乱れず落ち着いたプレーをしたりしていました。それは、金光大阪高校にはゴミ拾い用の火バサミが常備してあり、自分が思うにゴミ拾いが習慣的なものになっていると思います。だから試合中に細かな部分に気づくことができると学びました。またレーキやトンボ、野球用具がきちんと整理整頓されていたことから、乱れを無くすことで心の乱れも無くし、落ち着かせることができるから試合中に緊迫した場面でも、落ち着いたプレーができると学びました。

最後に社会的な面では、感謝の気持ちをどう行動に表すかを学びました。招待された側として、グラウンド整備をきちんとする、学校周りや地域のゴミ拾いをする、集会所を使う前よりもきれいにすることなど、自分たちにできることを探すことも学びました。また社会的な心も学びました。集会所の周りは住宅街なので静かに過ごすことや、集会所やバスでは集団で過ごすので、それに見合った行動をすることなど、当たり前のことですが、そのような場所でどう行動すればよいかを学びました。この五日間の大阪招待は本当に充実した五日間でした。このような経験をさせていただいた方々に感謝の気持ちを持ち、これからの生活に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

大阪招待を終えて

気仙沼高校硬式野球部
1年 青砥 瑤

私はこの大阪招待を終えて、まず1つ感じたことがあります。それは人の温かさです。ホームステイでお泊りをさせて頂いたり、北摂つばさ高校さんからホームステイ先まで送迎をして頂いたりと、人の温かさを感じることができました。また、他の高校のマネージャーさんと交流することでいい刺激をもらうことができました。さらに、金光大阪高校の整理整頓の仕方や物を無駄にしない方法、コンビニ活用法の表を見させていただいて、とてもいい勉強になりました。

ホームステイ先では、帰ってくると温かいお風呂を準備してくれたり、朝早くからおいしいご飯を作ってもらったりしました。2日目の夜に豪華なバイキングをごちそうになり、その後、家で震災のお話をさせて頂きました。他の人にこのようなお話をあまりしたことがなかったので、とてもいい経験になりました。また、大橋さんの奥さんから阪神淡路大震災のお話を聞かせていただきました。直接話を聞くことが初めてだったのでこれもとてもいい経験となりました。ホームステイ先の子たちにも、今回話したことをぜひ忘れないでいてほしいと思いました。

今回の招待で一番の思い出はたくさんの人と交流したことです。北摂つばさ高校の生徒さんは朝早くから送り迎えをしてくれて、その道中たくさんお話をしました。また、お昼ご飯を1日目は茨木高校さんと、2日目は北摂つばさ高校、登米高校さんと一緒に取らせていただきました。私たちはマネージャーさんと食べました。自分の高校や地域について話したり、お互いに方言を教えあったりしました。それがとても楽しかったです。

この招待を通してたくさんの人とつながることができ、また、たくさんの方が支援をしてくれているのだと実感することができました。この招待で学んだことを今後の野球活動に生かしていきたいと思いました。私たち、気仙沼・気仙沼西・登米高校に貴重な体験をさせて頂いたことを感謝します。この度は本当にありがとうございました。

つばさ高校から学んだこと

気仙沼高校硬式野球部
1年 千葉和生

今回の大阪招待を終えて自分は、北摂つばさ高校の皆さんがあんなにも自分たちを歓迎してくれたことに疑問を抱きました。

つばさ高校に到着してからの歓迎式の時、朝7時と早いにもかかわらずつばさ高校の生徒の皆さんは、何十人も歓迎会に参加していました。また、宿舎まで案内してもらおう際に、荷物を持ってもらったりもしました。このような歓迎を受け自分は、とてもありがたいなと感じていました。

しかし、2日目以降もこれ以上の歓迎を受け自分は、つばさ高校の皆さんは、なぜこんなにも自分たちを歓迎してくれるのだろうという疑問を持つようになりました。

つばさ高校の皆さんにしてもらったことを自分が見ず知らずの人にできるか。と聞かれても、自分は絶対にできません。そこで、自分がなぜできないのか、つばさ高校の皆さんはなぜできるのかを考えました。

まず、つばさ高校の皆さんがなぜできたのかについて考えました。つばさ高校の皆さんは、自分たちに気軽に話しかけてくれたり、率先してコミュニケーションをとってくれたりなど、自分たちとのつながりをとても大切にしているように感じました。その点自分は、コミュニケーションなんてどうでもいいみたいな考えで大阪にいたと思います。これまでの自分には、人とのつながりを大切にするということがかけていたと思いました。

次に、自分がなぜできないかについて考えました。自分は人を信じることができないがためにそのようなことができないのだと考えました。

この招待を通して、自分は今まで以上に人とのつながりを大切にしたいと思いました。来年も楽しみです。

大阪での経験を踏まえて

気仙沼高校硬式野球部

1年 前川 匠

私は3月23日から3月27日まで行われた大阪招待で気仙沼や宮城県内では学べないようなことをたくさん学びました。

例えば、野球面では大阪のチームは元気がよく活気に溢れていました。しかし、そんな中でもしっかりと1つのプレーや、試合に集中することができていました。その理由を自分なりに考えると、「勝つ」という目標を決してぶらさず、且つ野球を楽しんでいるからこそあの活気に溢れた声やプレーが生まれると思いました。

気仙沼高校は優勢な時こそ元気なものの、劣勢に追い込まれるととても消極的になります。すなわち勝利のビジョンが明確・現実的であるときは盛り上がるが、そうではないときは消沈してしまうということです。それは負けていても勝利を心の底から諦めない気持ちでチームに欠けており、その波もチームの敗因の1つだと思います。

もう1つは、野球以外の面でこの大阪への招待は当たり前ではないということです。これは実際大阪に招いていただき、食事、入浴、睡眠とどれを取っても多くの方々の多大なるご支援により可能なことだったのだと強く認識することができました。当たり前に行っていることがとてもありがたいことだと再認識しました。

これからは、気仙沼高校の一員としてもそうですが、社会の一員としても今回の招待の貴重な経験をさせていただいたことへの感謝をし、それに応えられるよう、恥じないよう、日々精進していこうと思いました。

大阪招待で学んだこと

気仙沼高校硬式野球部
1年 藤田紘人

自分が、先日の大阪招待で学んだことは2つあります。

1つ目は、声の力の強さです。自分たちは、必要な声だけを出しているのですが少々弱い感じの声に聞こえてしまっています。しかし、大阪の人たちの声はとても強く、それであって必要な声を出している。まさに野球内での声の完成形とでもいえるような素晴らしい声でした。

あのような声を出せるチームで野球をしていたとすると、とても心強く、緊張することもなく、野球というスポーツを楽しむことができ、それであって勝つことができると思います。

また、強い声を出すということは相手の勢いを跳ね返すことができると思います。弱い声だと、相手の勢いにのまれてしまい、思うようなプレーができないと思います。しかし、強い声を出すと相手が波に乗っていても、普段通りのプレーをすることができ、たとえ押されていたとしても、形勢逆転することができると思います。

このような理由から強い声は、自分たちのチームに必要なだと考えました。

2つ目は、つながりの大切さです。

大阪の人たちは、とても気軽に話しかけてきてくれて、あまりコミュニケーションをとることが得意ではない自分にも、普通に話しかけてきてくれました。

正直自分はコミュニケーションはあまり必要ないと考えていましたが、今回の大阪招待で人とつながることの大切さを学びました。

この大阪招待を通して、自分は野球のプレー以外に必要なことを多く学べたと思います。この経験を活かして、声やつながりについて、もっと学んでいきたいと思っています。

大阪招待試合を通して

気仙沼高校硬式野球部
1年 尾形鼓太

自分が今回の茨木市大阪招待試合で学んだことは、凡事徹底とコミュニケーションの大切さです。自分は大阪での3試合を通して当たり前前のことを当たり前に行うことの大切さと重要性を学びました。北摂つばさ高校は、ベンチワークが素晴らしく自分は圧倒されそうになり気仙沼高校もこのようなことができれば良いなと思いました。金光大阪高校では、ランナーが走るだけでボコボコになるくらい柔らかい土のグラウンド、グラウンド整備道具の片づけ方、グラウンド周辺の清掃など何気ない見落としがちなことを完璧に行っていました。このようなチームが甲子園に行けるのだとおもいました。

自分はこの大阪招待試合前まではこのようなことをやっていると思っていましたが全然足りないのだと気付かされました。その上、大阪のチームは野球に飢えていて、自分達はこの気持ちが全く薄いと感じました。

2つめは、コミュニケーション力です。大阪の高校生はとても親切で、少しの間でも気軽に話ことができました。2日目の時につばさ高校のダンス部の男子生徒と交流させていただき、写真も一緒に撮ることができてとてもうれしかったです。自分もこのように誰とでも心置きなく話ができる人間になりたいと思います。

これからシーズンが始まり、練習、試合が本格的になっていき春の大会、そして夏の県予選まであっという間です。この大阪招待試合で学んだことを絶対無駄にしないように努力したいです。

つながり

気仙沼高校硬式野球部
1年 高橋 丈

私は大阪遠征で感じたことが二つあります。

一つ目は、多くの方々の支えがあって大阪まで行けることができたのだと感じました。北摂つばさ高校の生徒の皆さんやホストファミリー、地域の皆さんなどがあたたかく迎え入れてくれ本当にうれしかったです。このような経験をすることができ、本当に感謝しています。特に、北摂つばさ高校の食堂の皆さんには感謝しています。多くの人分分の料理を作ってくれてありがたかったです。そして、どの料理もおいしかったです。私達は、今回の遠征でたくさんおもてなしをされましたが、私達も何か恩返しできたら良いなと考えました。一番は結果で恩返しをするということです。遠征中もチームは結果で恩返しすると考えていました。大阪では1勝しかできませんでしたでしたが、全力で戦いました。これからも結果で恩返しをしていきたいです。

二つ目は、様々な人との出会いに感謝するべきだと感じました。北摂つばさ高校をはじめ、茨木高校、春日丘高校、金光大阪高校、茨木市、スポーツ少年団の子供たちなどたくさんの方々と出会い、交流することができました。野球というスポーツを通して交流することができたので野球ができることにも感謝したいです。短い時間でお話も少ししかできませんでしたがこのつながりを大切にしていきたいと思いました。来年も大阪に行ける機会があったら、たくさんの人とお話してみたいと思います。

今回の大阪遠征は、野球だけでなく、これからの人生にとっても非常に良い経験になりました。そして、気仙沼と大阪というとても離れている場所でもたくさんの方々とつながっているんだとわかりました。このつながりに感謝したいです。

成長の機会

気仙沼高校硬式野球部

1年 小野寺 未桜

私が大阪遠征を通して学んだり、感じたりしたことは大きく3つあります。

まず、1つ目はコミュニケーションの大切さです。大阪に行く前のミーティングでも「コミュニケーションは大切だ」と言われていましたが実際は自分が思っていた以上で勉強になる部分が多くありました。茨木高校のマネージャーさんとは昼食の時に互いの方言やなまりについて話をしてコミュニケーションをとることができました。コミュニケーションは今回だけでなく、これからずっと必要な力であるので今回の経験を生かしていきたいと思います。

2つ目は環境づくりです。金光大阪高校さんのグラウンドには、様々なところに小さな掲示があり、選手自身の目に入るようになっていました。選手一人一人が誰かに指示されなくてもできたり、選手の意識を高めたりできるような環境が整っていて、それがチームの強さにつながっているのではないかと思います。気仙沼高校でも選手の意識を高められるような独自の取り組みをしていけたらなと思います。

3つ目は人の温かさです。北摂つばさ高校の皆さんは朝早くから迎えに来てくださったり、たくさん話してくださったり私たちを心から歓迎してくださいました。また、ホームステイ先の大橋さんは私たちが帰るとすぐにお風呂に入れるようにしてくださるなど、私たちを温かく迎えてくださいました。

このほかにも、小さなことに対する礼儀や、あいさつなどたくさん勉強できることがありました。この4泊5日はとても短い時間でしたが、学ぶことが多く、自分自身も、マネージャーとしても、チームとしてもすごく成長できる機会でした。大阪招待を支えてくださった全ての皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。この成長の機会が無駄にならないように日々取り組んでいきたいと思います。



気仙沼湾の眺望

感謝

登米高校野球部主将 熊谷柘真

昨年引き続き私たち登米高校を大阪までご招待して頂きありがとうございました。昨年とはまた違った発見と収穫がありました。そして、なによりも大きな財産となり、長いようでとても短く今の自分に何が足りないのかをしっかりと認識できた遠征でもありました。そして、自分たちが来る前から準備に取り掛かってくださった北摂つばさ高校の皆さんにはとても感謝しています。また、その他にも試合をしてくださった、春日丘高校野球部のみなさん、金光大阪野球部のみなさんにはとても大きな刺激を受けました。その中で、たくさんの人と出会い去年から知っている人ともお互い成長した姿で再会できとても嬉しかったです。皆さんにこうして出会えたのは偶然ではなく、何かの縁だと思っています。

また、私たちを笑顔と拍手で迎え入れていただいた時はとても人の温かみを感じました。

交流試合では第1試合目ということもあり、たくさんの方々が応援に駆けつけて下さいました。少しでもお世話になっている方々に恩返しをするためには自分達のプレーで皆さんに勇気、元気、感動を与えることだと思っています。野球をやる以前に、常に謙虚であること、貪欲であること、人の為に尽くす大切さというものを気付かされました。

読売巨人軍元・監督 川上哲治さんの言葉で「野球人である前に社会人であれ。プロ野球選手は野球だけではなく人格的にも社会で認められるようにならなければいけない。」という言葉があります。私はこの言葉にすごく感銘を受けました。いくら技術がすぐくても、人間的に成り立っていなければ誰からも信頼をされないと意味ですごく今回の遠征で人間性というものがいかに大切かというのを身にしみて感じました。スポーツをしていなくても、やるスポーツが異なっても1人の人間として「人の為にどう動く事ができるか」など北摂つばさ高校のみなさんは常に追求しているように見えました。

全国には人のために自分たちを犠牲にしてまで人に尽くしている高校生がいるということを知りとても勉強になりましたし、同じ高校生として誇りに思います。この経験を自分たちだけのものにするのではなく、宮城の高校生に伝えることが私たちの使命であるので北摂つばさ高校のみなさんのような方々がもっと宮城にも全国にも増えればとても明るい未来が待っていると確信しています。今回はその第1歩として踏み出せたのでとても良い機会でした。

最後になりますが私は今回で最後の交流会となりました。毎年、大阪の高校生にはとても良い刺激を頂き心身共に成長できたと実感しています。

この交流会で知り合った方々にはその時だけの関係にならないように、今後また個人的に足を運びたいと考えています。

この2年間は人生というロングショットで見るととても小さい出来事かもしれませんが、この出会いと学びは冒頭にも綴りました通り私にとってとても大きな財産となりました。そんな意味ではすごく大きな経験をしました。この2年間で人生が変わる事だって十分に有り得ると思うのでこの思い出を大切にこれからの生活を送ろうと思います。

被災地では少しずつ復興が進んでいます。同時に笑顔も戻り今は何不自由なく暮らせていると思います。いつ、大切なものがなくなるか誰も予想ができないので1日1日を大切に後悔なく過ごし、また、来年、再来年、その先もずっとこの交流会が続く事を心から願っています。

次はいつ再会できるかはわかりませんがその日を楽しみに待っていたと思います。

短い間でしたが本当にお世話になりました。

ありがとうございました。

登米高校野球部副主将 菅原 宗大

私が、今年の大阪遠征を通して感じたこと、学んだことは3つあります。

1つ目は、つばさネットワークさんの細部にわたる思いやりがとてもありがたく、助かりました。そもそも、登米と気仙沼では被災の規模が違います。登米は内陸ですので、揺れによる被害で済んだ地域です。その登米高校が、気仙沼高校と一緒に連れて行ってもらえることは、とても幸せなことだと思います。それに加え、つばさネットワークさんが気仙沼高校だけではなく登米高校も、もてなしていただけてすごく助かりました。私も困っている人を助けていけるような人になりたいと思いました。

2つ目は、私たちを受け入れてくれた、ホストファミリーや、自治体の方々に感謝したいです。私は自治会館に泊まらせていただきましたが、驚いたことが、人数分の布団が私たちが寝る二階にあったことです。私たちが泊まることを聞いて、私たちの仕事を減らすためと、布団を上げていただきました。私たちに、このような、相手が今やってもらって嬉しい事を考え行動する能力が足りていない事に気が付きました。

3つ目は、北摂つばさ高校の生徒さんの気配りに驚きました。宿泊先までの送り迎えでは朝早くから来ていただき、キャリアバックを持ちますと声をかけていただきました。正直、これが同級生かと思いました。

遠征を通して、大阪の方々の気配りを学んだので、宮城で実践して行きたいです。

大阪遠征を振り返って 2年 遠藤 駿汰

今年も私たちを大阪に招待していただきありがとうございました。また、去年から私たちのために多くの方々が準備をしてくださりありがとうございました。

1日目は少年野球チームとアップやキャッチボールを一緒にやりとても楽しかったです。去年に引き続き北摂つばさ高校ダンス部のみなさんのパフォーマンスもありました。アクロバティックなダンスや息のぴったり合ったダンスをみて自分も本気でダンスを踊ってみたいと思いました。

そのあとに今年は春日丘高校さんと試合をしました。宮城とは違って大阪はとても暖かいので野球がやりやすかったです。春日丘高校さんはとても力のあるチームで全員がアップの時から声が出ていて元気のあるチームだと思いました。試合の後は春日丘高校さんとミーティングをしました。多くの意見がでて今後の課題などもみつきりいいミーティングをすることができました。

2日間は北摂つばさ高校さんと試合をしました。

今年はとても打つチームだと思いました。ピッチャーは球速がありキレのある変化球などがありとてもいいピッチャーでした。お昼を一緒に食べて大阪の色んな話を聞いて楽しかったです。

3日間は金光大阪さんと試合をしました。

シートノックの時から迫力が違いました。ボールを呼ぶ声や指示する声ひとつひとつが自分達よりも上だと感じました。結果は負けてしまいましたが自分達には足りない多くのことを学ぶことができました。

北摂つばさ高校のみなさん、ホームステイの方々、地域の方々の支えがあってとても充実した3日間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

関西遠征を終えて 2年 伊藤 亮

今回の関西遠征ではまずたくさんの人たちと交流をすることができました。またこのような機会を与えてくださったつばさネットワークの方々やホームステイ先までの道案内などをしていただいた北摂つばさ高校ユネスコ部の方々や試合のボールボーイや整備をおこなっていただいた北摂つばさ高校野球部の方々にまず感謝したいと思います。1日目は歓迎セレモニーなどを用意してくださり少年野球クラブの子達と一緒にキャッチボールをしたりとすごくいい形で迎えて頂きました。そのあと自分達は1試合目で春日丘高校さんと対戦させていただきました。試合を通しての感想はファーボールが多かったのが一番だと思います。ですが試合が終わったあと一緒にご飯を食べて一緒にミーティングをしてお互いの方言の違いなどを話してとても楽しく充実した時間を過ごさせていただきました。

そして試合が終わりホームステイ先への移動となり自分はうまく話せるかと不安だったのですがホームステイ先の高田さんはとても暖かい家庭で自分達を迎えてくださり一緒にお好み焼き食べたりお風呂に入らせていただき1日の疲れをとることができてとてもいい1日でした。2日目は北摂つばさ高校さんとの試合で北摂つばさ高校はピッチャーがとてもいいピッチングで自分も7回から試合に出たのですが打てなくてとても悔しかったです。ですがチームとして交流できてとても良かったと思います。北摂つばさ高校の野球部はみんなおもしろくてとても楽しかったです。そしてホームステイ先へ移動して遠征最後のよるはホームステイ先の高田さん家のお子さんたちと一緒にウノやトランプを一緒にやるととても楽しく過ごすことができました。高田さんには洗濯やご飯を朝早くつくってもらったり寝る場所を用意していただいたりとなにからなにまでやっていただき自分がどれだけ恵まれているのか知ることができ改めていまのこの状況は当たり前ではないということを再確認することができました。ありがとうございます。そして最終日は金光大阪と対戦して負けてしまったのですが圧倒的な差はなく自分達も冬練習してきたことをして試合ができたと思うので金光大阪などの強いチームのレベルに追いつくためにこれからも頑張りたいと思いました。自分は4月から3年生で関西遠征はこれが最後なのですがこういった経験は1度しかないと思うしとても貴重な経験だと思うので、この遠征で学んだことを今後の人生に生かして行きたいと思います。またお世話になった方々にはきちんとお礼がしたいので自分達の活躍が大阪まで届くようにこれからチームで頑張りたいと思います。本当に北摂つばさ高校のみなさんそしてつばさネットの方々、ホストファミリーのみなさん、対戦していただいた各高校の野球部のみなさん心から感謝しています。

ありがとうございました。

2年 高橋 玲遠

この度は、関西遠征に招待していただき、ありがとうございました。

今回は、自分達は、関西遠征にいけないと思っていました。

去年、前監督の千葉厚先生が最初に気仙沼高校に赴任していて、そこから登米高校に赴任していたので、関西遠征にこれでしたが、仙台一高に行かれてしまったので、もう関西遠征にはいけないと思っていたので、今回これたのは縁があったからだと思います。

本当に招待くださり、ありがとうございました。

北摂つばさ高校の方々、ホームステイの方々、北摂つばさ高校の野球部の方々、春日丘高校の野球部の方々、金光大阪野球部の方々、その他にも関係者の皆さまには本当に感謝しています。本当にありがとうございました。

特に、北摂つばさ高校の文化部の方々、ホームステイの方々には大変お世話になりました。

北摂つばさ高校の文化部の方々には、自分達のために、朝早くからホームステイ先まで迎えに来てくださって、道案内のしてくださったり、荷物を持ってくださったり、本当に助かりましたし、お世話になりました。本当にありがとうございました。

ホームステイの方々には、自分達の健康を気になさって、アレルギーなどないかなど遠征前から心配になさってくれていたことを聞きましたし、本当に優しく、面白くて、楽しくて、もう少し泊まって居たかったです。

本当、お身体には気をつけて頑張ってください。

最後に、この感謝の気持ちを形として、示すことができないのが残念ですが、関西遠征にお世話になった方々に、良い結果を報告できるように必死で頑張りたいです。

2年 佐藤 研斗

今回の2泊5日の関西遠征を通して、学んだことがあります。

一つは人のために動くということの難しさです。北摂つばさ高校の生徒たちは、自分たちが関西遠征を行うための費用を約1年前から募金などの方法で色々な人に呼びかけ、準備をしてくれています。出会ったこともない自分たちのためにこのようなことをしてくれるのは思いやりがなきゃできないと思います。自分自身、北摂つばさ高校の人たちのように

出会ったこともないような人たちのために準備をするということは、正直気持ちが乗らないと思うし、なかなか進んでできないと思います。実際にやっている人を目の当たりにして、自分の気持ちに向き合ってみて、人のために行動するという難しさを改めて実感しました。しっかり人のために働きたいという思いがなければできないということがわかりました。しかし、どんなに難しくても、人間として大切なことなので自分もしっかりやっていきたいと思いました。

次に学んだことは人との関わりの大切さです。今回の関西遠征をとおしてたくさんの人と関わりを持つことができました。気仙沼高校や大阪の高校の生徒たち、先生たち、たちホームステイ先のホストファミリーの人たち。昨年出会った人たちが、今回また出会った時、自分のことを覚えていてくれました。それで試合の時応援したりしてくれて、一度会っただけなのにそのようなことをしてくれて、そういう出会いはやっぱり大切なんだということを改めて実感しました。もしこれからさき、大阪の方にいたりする機会があったとしたら、今回知り合った人達の所へ行きたいと思いました。

今回の遠征は色々な人の支えがなければ叶うことができないことでした。このような素晴らしい体験ができたのも多くの人のおかげです。これも自分にとっての出会いのひとつだと思います。一つ一つの出会いは小さなことだとしても、それぞれの出会いは自分にとってはかけがえのないものです。今回の縁をこれから大切にしていきたいと思います。今年は本当にお世話になりました。ありがとうございました。

2年 高崎 凱

今回の関西遠征を終えて、試合だけではなくそれ以外の部分でも多くのことを学びました。

まず朝早くから、自治会の集会所やホームステイ先に泊まっている私たちを時間通りに迎えに来てくれたり、重い荷物をわざわざ持ってもらったりして、その気遣いはとても素晴らしいことだなと思いました。私達は自分達のことではいっぱいになってしまっていて、周りぬ気を配ることあまりできなかったのも、このことは改めてチーム内で考えたいと思います。

次に、ホームステイ先でお世話になった時なのですが、朝早く起きてもらい朝ごはんを準備してもらったり、夕飯もたくさん準備してもらったり、すごく優しく接してくれて第二の我が家にいるような気持ちでした。この優しさは普通誰にでもできるものではないと思うので本当に素晴らしいなと感じました。

試合では、春日丘高校さんや北摂つばさ高校さん、金光大阪高校さんと試合をさせてもらい、大阪の高校はどのチームも声が大きく、絶対勝ってみせるという気持ちがすごく強かったです。この気持ちがプレーの中に影響していて、自分達に足りないものを改めて見つけることができましたと思います。一人一人がボールへの執着心がとても強く、必要な声かけがずっと出ていて、自分の出している声は必要なのか改めて考えさせられました。ノックでも一歩目の出し方が早かったり、外野からの中継プレーが早くランナーがアウトになる場面が多く見られ、プレーでもたくさん学ぶことができました。

去年に引き続きお世話になった洗浩二さんをはじめ、ユネスコ部の方々、北摂つばさ高校さん、茨木高校さん、春日丘高校さん、金光大阪高校さんなど様々な方のおかげでこの遠征ができることに改めて感謝しています。このような企画がこれから先もずっと続いていければいいなと思っています。本当にありがとうございました。私達もこの遠征で学んだことをしっかりと日々の練習でも意識し、今年の夏大でいい結果を報告できるよう精一杯頑張りたいと思います。

2年 佐々木 魁

私は、昨年も行き今回で2回目です。去年は、北摂つばさ高校、茨木高校、春日丘高校、金光大阪さんにお世話になりました。すごく私達1年生にはすごくいい経験になりました。

学年が上がリ、もう一回行けることに私はすごく嬉しかったです。

一試合目は、春日丘高校さんと試合をし2対1という結果で勝つことができました。

春日丘高校さんと一緒にミーティングができ、お互いのチームワークが良くなったと思いました。ありがとうございました。

また、茨木高校さんとは、試合は出来なかったんですけど、見て多くの私達と違う所を発見することができました。本当にありがとうございました。

2日目には、北摂つばさ高校さんと試合をしていただき結果6対3で負けました。

負けたことで、部員全員が課題を見つけることができました。また、北摂つばさ高校さんのアウトアピールの声が目立っていました。真似していきます。本当に朝から夜まで私達のお世話ありがとうございました。感謝しています。来年もよろしく願います。

3日目には、金光大阪さんと試合をしていただきました。まず、シートノックから驚きました。昨年も驚きましたが今年もすごいと思いました。

試合の結果は、4対2で負けました。

私は、この結果には大きな差があると思っています。練習からの意識の違い、また、チーム全員でその目標を達成するという気持ちがあるなと思いました。

春の大会前に、すごくいい経験でした。

ありがとうございました。

この三日間、雨も降らなく快晴の天気の中試合ができとても良かったです。

1番お世話になったのは、ホームステイ先の家族です。ごはんなど、朝から早く作っていただき本当にありがとうございました。また、洗濯などもしていただき感謝しています。

私達が大阪でこのように、何も問題なく野球を楽しんでできていることは、北摂つばさ高校さんの、ユネス

コ部、野球部また、ホームステイ家族、皆さんのおかげです。本当に三日間お世話になりました。
北摂つばさ高校、春日丘高校、茨木高校、金光大阪、甲子園で必ず会いましょう。

2年マネージャー 渡辺 英季

今年も登米高校野球部を大阪、そして親善試合に招待して頂き、誠にありがとうございました。
今回の試合、交流、ホームステイを通してたくさん学びましたし、思い出も出来ました。
試合では宮城とはストライクゾーンが少し違ったのか、最初は戸惑ってはいましたがなにより試合では真剣に、その後の交流は楽しく出来ていたのが良かったです。1年経ってお互いの成長が見えたい試合だったと思います。
交流では事前に準備して頂いた野球部や朝早くから夕方遅くまで送迎して頂いたユネスコ部の皆さんなど、1年前から準備して頂き、私達は何不自由無く過ごすことが出来ました。
また、グラウンド整備なども丁寧で見習う事が多々ありました。
ホームステイではどう挨拶したらいいかわからない私達を暖かく迎え入れて頂き、震災の事、試合の事、将来の事など色々な話をし、とてもリラックス出来、帰り際に涙目になって来てくれてありがとうございますと言われた時には貰い泣きしそうになりました。大阪に行く機会があればまた挨拶に行きたいです。
このような充実し、貴重な体験が出来たのは北摂つばさ高校野球部を始め、先生方、がんばろう！つばさネットワークのみなさん、茨木市市長、ホストファミリーのみなさんのおかげだと思っています。本当に感謝しています。
お互いが試合で得た課題に向き合い、ひたむきに努力し、春、夏挑めば結果に結びつくと思います。
いい報告が出来るように、いい報告が聞けるようにお互い夏に向けて頑張ってください。
今後もずっと長くこの親善試合、交流が続きますよう、登米高校野球部一同願っています。
本当にありがとうございました。

1年 佐々木 翼

私がこの遠征を通して学んだことは、感謝の気持ちを持つということです。この遠征は自分達だけではできないものです。気仙沼高校さんや北摂つばさ高校さんの協力がありこの遠征が出来ます。朝はやくから夜遅くまで自分達のために働いてくださったユネスコ部のみなさんや藤井先生、そして自分達を快く受け入れてくださったホストファミリーのみなさん、自分達が思い切り野球が出来るように準備をしてくださった北摂つばさ高校野球部のみなさん、自分達と対戦してくださった春日丘高校さんや金光大阪高校さんにはとても感謝しています。この感謝の気持ちを忘れず自分達が尽くされる側だけでなく誰かに尽くすという立場になれるように今回学んだことをしっかりと活かして行きたいと思います。
野球では、宮城県と大阪府の野球の違いというのを学べたと思います。特に金光大阪高校さんは守備が安定しており、打撃ではどこからでもチャンスを作れるというやはり強豪校との違いが分かりました。そしてなにより1番自分達と違うと思ったことは声出しです。アップから全力で声を出しておりすごいなと思いました。試合に入っても声が止まることなく絶対に誰かが声を出し続け

ていました。声を出すことが自分達の苦手なことなので、春日丘高校さんや茨木高校さん、金光大阪高校さんのように常に全力で声が出せるように頑張っていきたい思います。

この遠征はとても勉強になることがたくさんありました。今回学んだことを忘れずに甲子園でれるように頑張りたいと思います。ありがとうございました。

1年 佐々木 大輝

今回の関西遠征では、野球を通して野球の技術だけではない、さまざまなことを学ばせていただきました。自分は外野手であるため、自分たちのチームよりも強いチームの特に外野手の1歩目の切り方や送球などの守備面から積極的に次の塁を狙う姿勢、バッティングでの工夫などの攻撃面でレベルの高いプレーを見ることができて、自分に足りないものが何なのか、自分が今まで、どれだけレベルが低かったかを改めて実感することができ、とても良い勉強になりました。この経験を忘れることなくこれからの野球に生かしていきます。関西遠征では、野球以外にも沢山のことを学ばせていただきました。特にこの関西遠征では、さまざまな人の支えがあって自分たちが今、野球ができているということです。ユネスコ部の皆さんには、朝早くから日が沈むまで文句1つ言わずにお世話をさせていただきました。自分なら1日ともたないと思います。同じ年代なのにこんなにも差があると実感しました。その他にも、大阪の高校生はとても優しくておもしろい人ばかりで、気軽に話しかけてくれて食事のときの会話はとても楽しかったです。その後のお風呂や泊まる場所などもさまざまな人の支えがなければ利用することさえできないものです。誰かも知らない人が、自分たちのような、会ったこともない人のために一生懸命になってくれる。これは、旅行ではなく、関西遠征で野球部員として大阪に行かなければ、考えることはなかったと思うので、野球部でよかったと思いました。当たり前だと思っていることも誰かの支えがあるということを実感しました。今回の関西遠征では、野球の技術はもちろん、その他の人間として学ぶことがとても多かったです。本当にありがとうございました。来年もご迷惑をおかけしますがよろしく願います。

1年 猪又 篤

関西遠征ではたくさんの方々ที่支援してくださったおかげで何不自由なく生活することができたと思います。遠征が始まる前から両親には準備の手伝いをしてもらい、自分が使うユニホームを何一つ文句を言わずに洗って準備をしてくれたこと、そのような小さなことまで気をつけてくれたことにとても感謝の気持ちでいっぱいです。なので、このような感謝の気持ちを自分は野球でしか返せないと思ったので今回の関西遠征は全力で野球をしようと思っていました。結果的に負け越しとなりましたが最後まで声を全力で出すなど出来ることはやり通すことができました。

北摂つばさ高校は野球だけでなく人間性としても素晴らしいものを持っているなと感じました。楽しく、気持ちよく練習試合ができたのは北摂つばさ高校さんのおかげだと思っています。

春日丘高校は一人一人が野球を楽しんでるという印象が残っています。楽しいという理由で野球をやっている事はとても素晴らしいことだと思います。楽しさに勝るものはないんだと心から思いました。

金光大阪高校を見ているとあきらめないと言う文字が浮かんできます。それはシートノックの時に感じました。エラーをしたからプレイをあきらめるのではなく1塁や2塁にボールを投げきるという行動をとって

いました。それを見たときに、そんな選手は登米高にはまだいないと感じました。なので自分が率先してやっっていこうと思います。

今回の関西遠征で関西の高校球児は野球がとても好きなんだなあとすごく思いました。私は野球は勝たなきゃ面白くないと思っています。そして、勝つためには努力が必要だと思っています。なのでこれからは小さなことを積み重ねていき努力し続けて試合に勝っていこうと思います。いつか野球を心から楽しいと思えるように頑張ります。

1年 佐竹 元伸

大阪遠征を通して学んだことは、沢山ありますがその中で特に印象に残ったことがあります。一つ目は、北摂つばさ高校の皆さんが自分達のために一生懸命サポートしてくださったおかげで不自由なく大阪での生活を送ることができました。さらに大阪の小学生や、同年代の高校生との交流の場を設けてくださり、大阪の雰囲気が生で感じることで個人的に、とても嬉しかったです。

二つ目は、試合面についてです。三日間試合をさせていただきました。春日丘高校さんは、投手の制球力がよく、自分達が序盤は安打がなかなか出ず、苦しい展開となりましたが連打とエラーで逆転し、勝利することが出来ました。しかし、実力は春日丘高校さんの方が遥かに上だったと思いました。初日だったので「大阪の高校は宮城県の高校よりもレベルが高いな。」と感じました。二日目の北摂つばさ高校さんは、投打共にバランスが良く、特に打撃では様々な戦術で揺さぶりをかけられ崩されて点を取られてしまい敗北しました。春日丘高校さんとは違い、頭脳的戦略に、長けていて「こういうふうなチームもあるんだな。」と感じました。最終日の金光大阪高校さんは、シートノックのときの一球に対しての集中力と執念が凄く、圧倒されました。試合でも圧倒的な守備力とスイングスピードが速くしっかり狙った球を逃さずに打って来るのでなかなか安打が出ずに敗北してしまいました。

最後になりましたが、関わってくださった関係者の皆様に心から感謝の気持ちを述べたいと思います。本当にありがとうございました。

1年 塩口 拓也

私は大阪遠征で学んだ事は2つあります。

1つ目は声の出し方です。大阪の高校さんは、どの高校もとても声が出ているなと感じました。どんな状況であっても声に波がなく、そして声が途切れることもなかったのが逆転する、もっと差をつける雰囲気が常に出ていたという事がとても印象に残っています。私たちは、声に波があり、自分たちが劣勢だったり、負けていたりすると、声が途切れてしまい逆転するという雰囲気づくりがうまくできていなかったのが自分たちもそういった雰囲気づくりをできるような声を出していきたいと思いました。そしてしゃべっている内容もワンパターンでなくその状況に応じた色々な内容のことを言っていたのでそこもとても参考になりました。私たちはしゃべっている内容がワンパターンになってしまうことが多いのでとても参考になりました。

2つ目はいろいろなことに対する準備の部分です。1日目は北摂つばさ高校さんが、3日目には金光さんがグラウンド整備をしていただきました。自分たちが使わせていただいたグラウンドを自分たちがなにもしなくても整備された状態になっていたのもそういった相手高校を迎える姿勢というものはとても勉強になりました。自分たちの試合がなくても運営を全力でする姿勢を参考にしていきたいと思いました。そしてユネス

コ部のみなさんも私たちのために早く集まって送迎をしていただいたり見ず知らずの人のために尽くして
いて自分がすると考えてたらとても大変なことにだと思うのですごいと思いました。

1年 三田 新大

関西遠征を終えて、自分たちは色々な人の支えがあり野球が出来ていると改めて感じました。朝早くから、
夜遅くまで自分たちのために働いてくれて、自分と同じくらいの歳の人たちがそのようなことをしていると
思うと、刺激にもなり、勉強にもなりました。今まで当たり前に行っていたことが当たり前ではないと知り、
自分もこのままではダメだと思いました。自分よりも他人のために、これからはそういう生き方をしてい
きたいです。

大阪の高校と試合をして感じたことは、アップから違うことが分かりました。声の出し方、キャッチボール
に対する気持ちの込め方など自分たちとは違うところが多くありました。試合中も負けている場面で全員で
点数を取りにくる姿勢、グラウンド整備の速さ、正確さなど普段の試合や練習などでは感じられなかったこ
とを感じる事ができました。今まで感じる事ができなかったレベルで試合ができたので、ほどよい緊張
感の中で、ワクワクしながら試合をすることができて、とても楽しかったです。

今回初めて関西遠征に行って、前よりも成長して宮城県に帰ってくることができたと思います。
帰って来てからは、他人の気持ちを前よりも考えるようになりました。でもそれは難しいことなんだとい
うことも感じています。でもそういうことを当たり前のようにやっているということはとても凄いことだと思
いました。せっかく今回このような良い経験をさせてもらったので、このことを自分たちの学校に戻ってか
らも生かして、周りの生徒達にも伝えていき、大阪にはこのような素晴らしい生徒達がたくさんいるんだ
ということを心にとめて、自分たちも負けないように頑張っていければ良いと思います。来年もまた招待し
てもらえたら、今年よりも成長した姿を見せられるように、これからも頑張ります。ありがとうございました。

1年 白岩 哲

自分はこの関西遠征を通して学んだ事は2つあります。1つ目は自分のために何かをしてくれる人がいると
言うことです。北摂つばさ高校のユネスコ部の人たちや先生方並びに関係者の方々が自分達のために様々な
計画を立てて準備して、朝早くから夜遅くまでお世話してくれる人たちがいて、自分たちが当たり前
に遠征を行えたのはこの人たちの協力があってこそ遠征だと感じました。本当に感謝しかありません。遠征中の
ミーティングでもありましたが自分が歓迎する立場だったかどうか、という話があり自分は全く違う地域の
同級生の為に、又は後輩の為に朝早くから夜遅くまで尽くすことができるのかと考えましたが自分には絶対
にできないなと思いました。

2つ目は大阪の高校の試合への望み方です。この遠征で4つの他県の高校を試合を見ましたが、宮城ではあ
まり見たことがない声のかけ方をする高校や、シートノック中にずっと意味のある声を出し続ける高校、ベン
チから見て威圧感のある高校など学校によって様々な特徴があるなと思いました。特に北摂つばさ高校さ
んの攻撃中に、バッテリーボックスに入った後ベンチに声をかけてる姿が見られました。その後のベンチ盛り
上がり方がすごくいいなと思ったのと同時に、ピッチャーに対する威嚇にもなっていないかと思
いました。自分はマウンドに立っているときにそれに気づいて凄くいい雰囲気
で攻撃をしているな、と感じました。自分達でも相手の守備を威嚇する
ような声、バッテリーを鼓舞させる声
がけを意識的に出せばいいなと思
いました。

自分は初めての遠征だったのですが、得るものは大きかったと思います。これを自分のものにできるように日々の練習を一生懸命にしていきたいです。本当に身になる三日間でした。

1年 菅原 颯斗

3月23日から27日まで大阪遠征に行きました。大阪に着いてからの1日目は北摂つばさのグラウンドでした。はじめは小学生と交流会でした。自分もあんなに小さかったんだと思い出しました。その後春日丘高校と試合をしました。その試合は失点が少ないゲームでした。ピッチャーのフォアボールなどの後にしっかり声をかけられた結果が大崩れしない試合になった理由だと思いました。そこで声かけが大切かがわかりました。春日丘高校のシートノックで内野の握りかえがはやかったと思いました。特にショートは握りかえもはやく送球も安定してました。自分は捕球と握りかえが下手くそなのであのショートを見習いたいです。お昼は春日丘のよしきさんと仲良くなれたのでよかったです。2日目は北摂つばさのグラウンドで北摂つばさ高校と試合しました。この試合はフライがわかりにくかったです。1イニングセカンドをやった時もフライが来てわかりにくかったです。その時にも大切なのは声なので相手に聞こえる声かけをしたいです。3日目は金光大阪高校に行きました。シートノックを見てまず声に圧倒されました。1回も声が途切れなくてすごい威圧感でした。そしてみんな肩が強くてファースト送球がすごかったです。ノックで届かなそうな時も全部ダイビングで諦めてる姿が1つも見えませんでした。ノック中にミスしたひとにやじって捕ったら褒めてすごいチームワークだと思いました。こういうことをシートノックからやっていてこれが試合を意識した練習なのかなと思いました。試合をしてきた3日間で声の大切さと感謝の気持ちを持つことを学んだので自分達にも出来ると思うのでこれから夏に向けて頑張ります。

1年 千葉 弘樹

今回の遠征では感謝しなければならないこと学んだことがたくさんあります。僕たちが遠征をする何ヶ月も前から準備して下さったたくさんの人たち僕たちが何不自由なく試合をすることができたのもその人たちのおかげです。本当に私たちを温かく迎えていただきました。試合のほうではアップからものすごく声が出ていてとても迫力のあるチームがたくさんでした。まずは1日目に対戦した春日丘高校さんです。春日丘高校さんは一人一人目標を持ちその目標に向かって皆で向かっていくということを掲げていました。春日丘高校さんには本当に多くのことを学ばせていただきました。次に北摂つばさ高校さんです。北摂つばさ高校さんには私たちが泊まる集会場やホームステイ先など私たちが来る何ヶ月も前から準備をしていただきました。ホームステイ先の人や集会場の管理して下さる皆様に暖かく迎えられ本当に本当にこの関西遠征を何不自由なく終えることができたのもその方々の支えがあったからです。北摂つばさ高校ユネスコ部のみなさんには朝早くから夜遅くまで私たちのために動いてくれ本当に感謝しています。試合の方ではピッチャー中心にまとまりがありピンチになったときも声をかけあい私たちにはないところがあり、とても勉強になりました。3日目の金光大阪戦ではシートノックから声が出ておりボールを取るために一生懸命になっており一人一人がどのようにしたら上手くいくかときには厳しい声や周りからの注意の声が飛び交っていましたがそれを素直に受け止め実行する姿はとても勉強になりました。バッティングの方ではチャンスでの一本などとても積極的だったのが印象的でした。

この関西遠征では北摂つばさ高校さんはじめたくさんの方々から準備をいただき私たちが試合をするために何不自由なくして頂本当にありがとうございます。この関西遠征では人に対しての感謝の気持ちや何

気ない生活のありがたみを改めて知ることができました。本当に私たちのために準備いただきありがとうございました。この経験を生かしてこれからの野球人生を歩んでいきたいと思います。

1年 高橋 玲雄

この度、私たち登米高校と気仙沼高校を招待していただき本当にありがとうございました。私は初めての関西で少し緊張もありましたが、北摂つばさ高校さんをはじめ、たくさんの人たちが温かく私たちを迎えてくれたのでとても楽しい時間を過ごさせていただきました。宮城とは方言も違って関西弁はとても新鮮でした。歓迎セレモニーでは北摂つばさ高校ダンス部のキレイキレイのダンスが印象的でした。1日目は春日丘高校さんと戦いましたが、アップの時から声の大きさが比べ物にならないくらい凄かったです。試合になってからも、ベンチや試合に出ている人の声、また声かけの内容がすごくいいなと思いました。2日目の北摂つばさ高校さんとの試合で私は投手として出場しましたが、やはり声がとても凄くて打席に入る前の打者の声には投手の自分からしたらとても脅威に感じました。

最終日の金光大阪でもたくさん学ぶことができました。私は初めての関西遠征でしたが、何も不自由なく大阪で三日間過ごせたのは皆さんの協力があったからだと改めて思いました。本当にありがとうございました。そして、東日本大震災から7年がたちましたが、被害の大きい地域は未だ復興されていませんが今回の交流を通して、復興に向けて頑張っていきたいと思っています。私はあと一年あるのでまた来年も大阪に行ってみようと思っています。また会える日を楽しみにしています。この度は本当にありがとうございました。